

《12月の番組ガイド》

鳥取市広報番組

とっとり知らせたい!

TOTTORI SHIRASETAI!

市民と行政がつながるTV「とっとり知らせたい!」。さまざまな情報をお送りしています。みなさんの知らせたい!情報も待っています。
【放送】毎週金・土

砂の美術館の3Dプロジェクションマッピングや鳥取砂丘イリュージョンなど、冬のイベント情報盛りだくさん! 「元気です」や「ジオたび」、「2014年の鳥取市政10大ニュース」もあります。お見逃しなく☆

facebookページ「とっとり知らせ隊」にも注目!

みやっち えりっち

鳥取市議会 12月定例会

市議会定例会の開会・一般質問の様を終了まで生中継、当日の午後6時から122ch(第2放送)で再放送します。

静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金・土

いなばぴよんぴよんネット
自主制作番組

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木
二十世紀梨のせん定など来年の収穫に向けた農作業の様子や雪害対策など農作業や旬の話題をお送りします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月
市内各地で行われるクリスマス行事や正月準備の様子、また取材した映像で今年1年を振り返ります。

生活情報番組『ぴよんぴよんワイド』【放送】毎週火
子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題、また講演会やイベントの様をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月
ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介!

122ch (第2放送)

週替わりでリクエスト番組やイベント番組を再放送。また、テレビでしゃんしゃん体操を毎日放送中!

番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください

情報をお寄せください!

いなばぴよんぴよんネット ☎ 0857-22-6111

※ 放送予定は予告なく変更することがあります。番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。
http://www.inabapyonpyon.net



ボランティアがきっかけで参加した“牛まつり”

から「但馬、牛まつり」に一緒に出てみないか」と誘われ、造形物コンテストに実物大の牛のダンボール模型を制作して出場。忙しい合間にみんなで作り上げた作品が、みごと最優秀賞を受賞しました。富澤さんは「地域の人と関わりを持ち、そこから発展していくところが楽しい」、徳丸さんは「この部活に入っていないと体験できなかった」と話してくれました。

フィールドは無限

活動範囲は山陰海岸だけに

とどまりません。今年世界ジオパークに認定された阿蘇ジオパークや海外にあるジオパークを見に行きたいと言う学生もいるため、新名先生は自身の持つネットワークを使い学生を海外に連れて行くことも考えています。

「卒業生がジオパークに関する仕事に就いて一緒に仕事したい、一緒に活動した子どもたちが環境大学に入学してジオパークに入ってくれたらうれしい」と話すのは新名先生。富澤さんは「卒業後もジオパークに関われたら」、徳丸さんも

「ジオパークを紹介できるような仕事ができたら」と言います。活動の場所やスケール、人とのつながりは一層大きくなり、ジオ部のフィールドは無限に広がっていきます。

世界を舞台に

山陰海岸ジオパークは、今年9月23日、世界ジオパークネットワークに再認定されました。「今後の活動が次の更新につながれば」と富澤さんの言葉にも力が入ります。

来月9月には、第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク

「やりたい」と言ってきたことに対し「やればいいよ」と新名先生が後押しすることもあり、学生たちは先輩・後輩の垣根なくグループを立ち上げています。

今では、カヌーやダイビングなど外で遊ぶ「アクティビティ」、子どもたちや一般人と理科の実験をしながらジオパークを楽しく勉強する『ジオサイエンスカフェ』の運営、地域のお祭りやボランティアに参加する『地域振興チーム』をはじめ、ロゴデザインを手がけた『デザインチーム』、岩石や地層が好きな『Team ROCK』など、さまざまにグループ分けをして活動しています。

地域とのつながりが、次の活動を生み出すこともあります。兵庫県新温泉町三尾地区で遊歩道整備などの地域活動に参加していると、地域の



鳥取環境大学ジオ部

今年4月、鳥取環境大学に1つの部活が立ち上がりました。その名は「ジオ部」。名前のとおり「ジオパーク」と「部活」を組み合わせたもので、准教授の新名阿津子先生の呼びかけにより設立されました。学生をはじめ地域の人も参加していて、現在では100人を越える部員が集まっています。

新名先生はジオパークの研究や地域での活動を進める中で、地域の人からの「もっと大学とコラボレーションしたい」、学生からの「もっと地域に出たい」「フィールドに出て活動したい」といった声を

「昔から京都のジオパークエリア内の海に行っていたこともあり海が好きだった」と話すのは部長の富澤亮太さん。副部長の徳丸哲也さんは、「スキューバダイビングをやったら海がきれいだった。ここから入部を決めました。ほかにも、「アウトドアが好き」「温泉が好き」など入部のきっかけは人それぞれです。

ジオ部は、肌でジオパークを感じ、徹底的に楽しむことが活動の基本です。学生から



三尾地区の遊歩道整備

シリーズ
元気です

153

ジオパークを
まるごと楽しむ

ジオ部立ち上げ!



企画は学生が中心になって考えます



市内で開催されたジオパークイベントに参加

聞き、「両方をマッチングすれば面白いことができるのでは」と思いこの部活を立ち上げました。

ジオパークを楽しむ

「やりたい」と言ってきたことに対し「やればいいよ」と新名先生が後押しすることもあり、学生たちは先輩・後輩の垣根なくグループを立ち上げています。

今では、カヌーやダイビングなど外で遊ぶ「アクティビティ」、子どもたちや一般人と理科の実験をしながらジオパークを楽しく勉強する『ジオサイエンスカフェ』の運営、地域のお祭りやボランティアに参加する『地域振興チーム』をはじめ、ロゴデザインを手がけた『デザインチーム』、岩石や地層が好きな『Team ROCK』など、さまざまにグループ分けをして活動しています。